

NPO 法人ヒミツキチ

2020年度 事業報告及び決算

自 2020 (令和 2 年) 年 4 月 1 日

至 2021 (令和 3 年) 年 3 月 31 日

1 事業の成果

今年度は、4月当初から新型コロナウイルス感染症対策の影響を受け、宮崎市公園緑地課からイベントで公園利用の自粛要請があり「小松台プレーパーク」を6月下旬まで開催することができなかった。また、4月～6月の2カ月間、独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金の助成もストップされ、90%近い予算を公的助成金に頼っている当法人は、存続して運営することも危ぶまれた。新型コロナウイルスが私たちに及ぼす影響は、予想を遙かに超えたものだった。昨年6月に応募した「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」は残念ながら獲得することができなかったが、組織の基盤強化のためのワークショップや研修に積極的に参加することが必要である。

「小松台プレーパーク」については、4月から2ヶ月実施できなかったものの、7月1日～11月26日、長期休みや祝祭日、台風などの荒天を除いて計40日間開催した。11月26日以降も地域の保護者主催で小松台地域まちづくり委員会と共催し、宮崎県教育委員会の後援を受け、毎週水曜日開催し、大きく前進した。しかし、再び12月中旬から今年2月上旬にかけて公園利用ができなくなり、冒険遊び場を開催することができなかった。しかし、延2,985人と多くの子どもたちが遊びを展開し、コロナ禍だからこそ、感染症予防対策をしながら健全な子どもの育ちを保障することが必要だったと感じている。地縁団体や地域の保護者と連携を強め、子どもたちの小さな声を拾い、SNSや様々な広報活動を通して「子どもの遊び(外遊び)の大切さ」を社会に伝えることができ、今年度も目的を大きく達成できたと感じている。そして、困り感のある子どもたちを支援するためには、私有地など規制のかかりにくい自由な場所で新たな子どもも支援も必要であることがわかった。

ヒミツキチ「森のがっこう」の活動を始めた経緯は上記の通りである。5月中旬に、宮崎市内から30分圏内で移動できる自然豊かな居場所を探し始めた。代表の友人の好意で、国富町深年の山林を借りることができ、宮崎県やカリタスジャパン(NGO)から助成金を獲得し、9月上旬から荒れていた山林を切り開き、子どもたちが自由に遊ぶことのできる環境をつくることができた。さらに国富町教育委員会や狩野地区長に経緯を説明し、近隣住民にも挨拶に行き協力をお願いした。この場所は、コロナ禍の影響を受け、不登校となった子どもたちや、困り感のある子どもたちのみが利用できる目的で設置した。地域で行う冒険遊び場とは違い、予約を必要とし、困り感のある子どもたちや、当法人の会員が利用できるよう配慮している。目的は「子どもの貧困(体験の貧困)をなくす」ことであり、自然遊びに没頭することで、増え続ける子どもの自殺やいじめなどを予防する効果があると考えている。子ども自身が多様な経験を積み重ね、自己肯定感を育むことを支援し、子どもの権利を保障する場にするため、試験的にノンプログラムを実施した。1月からは一般にも告知を行い、近

隣の小学校から困り感のある子どもたちも参加した。69日間開催し、延べ345人の子どもたちが参加した。今年度は助成金があるため参加費無料としたが次年度以降の運営資金の調達はまだ未定である。どんぐりこども診療所の小児科医系数氏や宮崎市総合発達支援センター「おおぞら」の相談支援員と連携しながらワンストップの支援を行うことができた。学校がゴールではないが、子どもたちが生きる意欲を育む環境を作ることができたことは大変有意義だったと考えている。

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金の助成を受け、昨年同様、日南市富士地区で『自然体験2020！海のヒミツキチ』を全3期計10日間開催し計120名の子どもたちが参加した。宮崎県教育委員会の後援を受け、毎週遠方から通う親子も昨年同様であり、海のアクティビティや自由な時間で、名もない遊びをつくり出す環境を整えることができた。不整地である砂浜で、全身を使って砂浜に穴を掘り、用水路から流れる水を利用してダムなどをつくる遊びなどが展開された。富士川にフィールドも広げ、普段見ることができない多くの生物にも触れ、日南市の自然の豊かさを体感した。今年も台風が多く、中止もあったが、地球温暖化を体感できる良い機会になった。自然の中で活動することは、思い通りにいかないこともあるが、だからこそ、この活動の意義を感じている。スタッフと子どもたちが海洋プラスチックゴミなどを拾いながら、環境保全の大切さを伝え、森と川と海が繋がっていることを話し合う機会も増えた。今後も子どもたちが自然で遊ぶ環境づくりと、環境教育をセットで実践し、持続可能な開発目標を達成するために、この活動を定期的に行い、人材育成と資金獲得の努力を重ねたい。

森のようちえん「ことりのもり2020」は9月12、13日の2日間81名の親子が参加し、宮崎市高岡町麓地区の地元の皆様の理解を得て初開催することができた。コワーキングスペース MUKASA-HUBを借り、1日目はドキュメンタリー映画「さあのはらへいこう」を上映し、子どもを信じて見守ることの大切さを参加者と共有し、保護者向けの外遊びリスクマネジメント講座とワークショップを実施した。2日目は、穆佐城跡の森へ移動し、森のようちえんの実践を行った。森では音楽家の演奏と絵本の読み聞かせを用意し、初めて森に入る子どもたちの不安を減らすことができ、森と子どもたちを繋ぐ素晴らしい体験を実施することができた。さらに、芋掘りする場を提供していただき、たき火で焼き芋をつくり、秋の味覚を味わう体験をすることができ、麓地区の皆さんの暖かさを感じることもできた。コロナ禍においても、幼少期の外遊びが子どもの豊かな育ちに必要であることを伝えることができ、大いに目的を達成できたと感じている。

9月21日には、前アメリカ副大統領のアル・ゴア氏による気候変動ワークショップの講師である市原氏を招き、「The Climate Reality Project」という環境保全に取り組むための勉強会を行った。当初、宮崎青年会議所会長の黒田氏に企業の参加を呼びかけ、宮崎大学で行う予定だったが、コロナ禍のため少人数開催に変更し、拠点である天空カフェジールで感染症対策を徹底しながら勉強会を開催した。参加者23名、17時から2時間勉強会を行い、その後交流会でプラネタリーパウンダリー概念も共有し、若い世代の参加者に国内の環境保全運動や、環境保全活動の取り組みを紹介した。法人の活動目的に環境保全活動も新たに追加し、子どもたちに豊かな自然を残していくことを実践し、今年度は大いに目的を達成することができたと感じている。

2 事業報告

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した 事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数
○冒険遊び場事業	(1) おそとであそぼう！小松台プレーパーク 2020 (2)ヒミツキチ「森のがっこう」	(A) 令和2年7月1日～11月26日31日間、11月27日～令和3年3月31日、9日間、計40日間開催 13:00～17:30(10月中旬から17:00まで) (B) 宮崎市小松台公園 (C) 8名 (A)令和2年9月1日～3月31日祝祭日を除く火水木曜日69日間開催 10:00～15:00 (B) 東諸県郡国富町深年周辺の森と川 (C) 4名	(D)全ての子どもと大人 (E)延2,985人 (D)困り感のある子ども又は保護者 (E)延345人
○プレーワーカー養成、勉強会	(1) PW・スタッフのスキルアップ	(A) 令和2年4月23日第1回スタッフ研修、令和2年6月19日第2回リスクマネジメント研修 11:00～14:00 (B) 宮崎市小松台西吉村低 (C) 1名	(D)プレーパークスタッフと保護者 (E)延12人
○屋外型子育て支援事業	(1) 森のようちえん「ことりのもり2020」	(A) ①令和2年9月13日②9月14日いずれも10:00～14:00 (B) ①宮崎市高岡町麓地区 MUKASA-HUB②宮崎市高岡町麓地区穆佐城跡の森 (C) 7名	(D)未就学児と保護者 (E)81人

○自然体験事業	(1) 自然体験 2020! 海のヒミツキチ	(A) ①令和 2 年 6 月 6.13.20.27 日 ② 9 月 12.19.26 日 ③10 月 3.17.24 日の 10 日間いずれも 10:00 ~16:00 (B) 日南市富士海水浴場 (C) 9名	(D)小学 3 年~6 年生 (E)120 人
---------	------------------------	--	----------------------------

(2) その他目的を達成するために必要な事業

なし

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 会費収益		
入会金収益	2,000	
正会員費収益	51,000	
賛助会員費収益	36,000	89,000
2 受取寄付金		
受取寄付金	315,053	315,053
3 補助金・助成金事業		
補助金助成金収益	4,956,644	4,956,644
4 事業収益		
講師謝金収益	20,400	
参加費収益	261,500	281,900
5 その他収益		
持続化給付金	397,500	
受取利息	9	397,509
経常収益計		6,040,106
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
役員報酬	-	
非常勤職員給料	2,497,000	
職員賞与	-	
賞与引当金繰り入れ	-	
非常勤職員給与	-	
退職給付費用	-	
法定福利費	-	
人件費計	2,497,000	
(2)その他経費		
謝金	94,200	
旅費交通費	168,100	
需用費	1,449,894	
印刷製本費	36,460	
通信運搬費	10,120	
図書研修費	51,037	
保険料	33,228	
使用料及び賃借料	292,400	
活動管理費	270,400	
租税公課	7,936	
その他の経費計	2,413,775	
事業費計		4,910,775
2 管理費		
謝金	3,000	
旅費交通費	610	
通信運搬費	14,736	
事務用備品費	-	
事務消耗品費	62,858	
印刷製本費	12,391	
施設使用料	-	
減価償却費	43,779	
保険料	-	
租税公課	400	
支払手数料	3,293	
会議費	2,035	
広告宣伝費	74,074	
諸会費	28,000	
車両燃料費	17,872	
雑費	-	
管理費計	263,048	263,048
経常費用計		5,173,823
当期経常増減額		866,283
当期正味財産増減額		866,283
前期繰越正味財産額		376,805
次期繰越正味財産額		1,243,088

特定非営利活動法人ヒミツキチ

貸借対照表

令和3年 3月31日 現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	1,240,424	
未収金	-	
前払費用	-	
棚卸資産	-	
流動資産合計		1,240,424
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品	58,374	
有形固定資産計	58,374	
(2) 無形固定資産		
無形固定資産計		
固定資産合計		58,374
資産合計		1,298,798
II 負債の部		
1 流動負債		
役員借入金	0	
前受金		
預り金	55,710	
流動負債合計		55,710
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		55,710
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		376,805
当期正味財産増減額		866,283
正味財産合計		1,243,088
負債及び正味財産合計		1,298,798

特定非営利活動法人ヒミツキチ

財産目録
令和2年 3月31日 現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
手元現金	62,500	
宮崎銀行普通預金	979,022	
ゆうちょ銀行普通預金	198,902	
未収金	-	
前払費用	-	
流動資産合計		1,240,424
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品(ノートパソコン)	58,374	
有形固定資産計	58,374	
(2) 無形固定資産		
無形固定資産計	-	
固定資産計		58,374
資産合計		1,298,798
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	55,710	
前受金	-	
前受助成金	-	
役員借入金	-	
流動負債計		55,710
2 固定負債		
固定負債計		-
負債合計		55,710
正味財産		1,243,088

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産 什器備品		175,118	-43,779	175,118	-116,744	58,374
合計			-	175,118	-116,744	58,374

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期首残高
役員借入金	590,000	0	590,000	0
合計				0